

7-11

里孫活動（化成小学校との交流）についての取り組み

活動を通してみえてくる地域との関わり

地域活動

特別養護老人ホーム 白十字ホーム

相談員 伊藤 圭

東村山市諏訪町2-26-1

TEL 042(392)1375

E-mail:hakujyuuji@mua.biglobe.ne.jp

FAX 042(392)1255

URL:http://www.hakujikai.or.jp

昭和42年開設。定員170名。短期入所併設12名+空床

所在地、東村山市。同一敷地内に病院・老健・在支・訪問介護・訪問看護・包括支援センターの事業所がある。2棟5フロアに分かれ、利用者の平均年齢86歳、平均要介護度3.8。帯時分散ケアをはじめて3年。年間ボランティア5000名余。

〈取り組んだ課題〉

- 小学校・PTA・社協と、連携した交流活動の実施
- 地域のなかでの白十字ホームの役割について

〈具体的な取り組み〉

- 5・6年生との交流で、2年間継続
- 児童が小学校の総合的な学習の時間に、随時ホームへの訪問。
- 納涼大会、訪問給食会などで児童がホームを訪問
- 運動会、招待給食会、卒業式などで利用者が小学校を訪問
- 交流活動にあたっては、スタッフ・ボランティアを配置
- ◎スタッフ
 - ・ 5、6年生と利用者
 - ・ 小学校教員、ホーム職員
 - ・ 小学校PTAボランティア、PTAのOBボランティア
 - ・ 地域ボランティア
 - ・ 社協ボランティアセンター
- 小学校と協力し、ボランティアへの協力要請
- ◎利用者が訪問する際の車イス介助
- ◎児童が車イス介助を行う際の安全面での支援
- ◎児童と利用者との円滑な交流のサポート
-

〈活動の成果と評価〉

- イベントのみの一過性の交流ではなく、里孫という結びつきのなかでより深い関わりを築くことができた
- 利用屋が地域の一員として、社会参加の機会を得られる
→利用者自身がボランティアとして活動に参加できる

〈今後の課題〉

- 里孫の利用者の『死』にあたって、どのように児童へ対応していくか
- 交流15年目をむかえて、交流を支えてくれるボランティア・地域住民の輪をどう広げていけるか
- 交流活動のマナー化
-

〈参考資料など〉